

意外と身近な耐性菌

この時期、夏休みを利用して海外旅行に行かれた方、あるいはこれから行く予定の方がたくさんいらっしゃるかと思います。今月は海外旅行と薬剤耐性菌についてのお話です。

耐性菌には、皆さんもご存知のMRSA以外に、CRE・VISA・ESBL・PRSP・MDRP・MDRAbなどたくさん存在し、医療現場を脅かしています。なかでも、現在危惧されているMDRAb（多剤耐性アシネトバクター）やCRE（カルバペネム耐性腸内細菌科細菌）は海外で広く蔓延しています。日本で起こったMDRAbによる院内発生例を右表に示しています。なんらかの理由により海外で入院し、その間に耐性菌をもらって日本の病院に転院された方がほとんどです。また、その患者さんが院内アウトブレイクの契機となった事例もあります。旅行中は体調を整え、事故に巻き込まれないよう十分注意して行動し、海外で病院受診する必要がないように気をつけましょう。

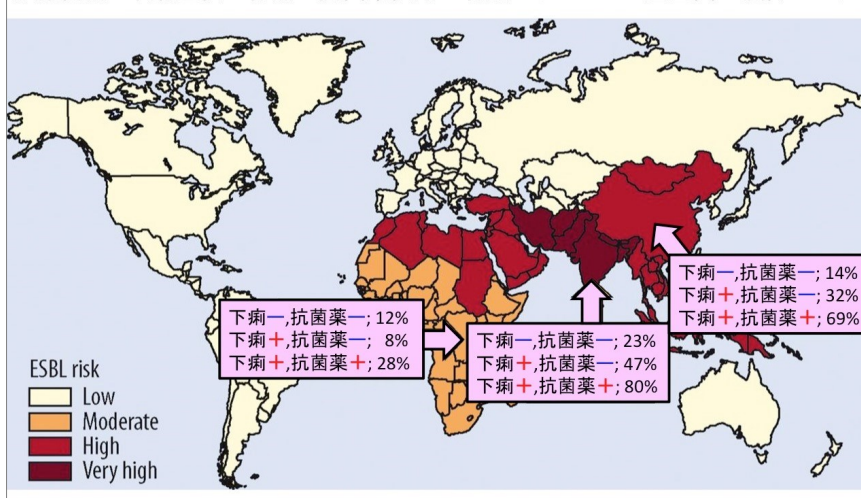
日本国内における多剤耐性アシネトバクターの発生事例

年	場所	患者の渡航先	院内感染した患者数(人)
2015	大阪府	クロアチア	確認されず
2014	三重県	タイ・ラオス	7
2010	愛知県	アラブ首長国連邦	確認されず
2009	東京都	不明	59
2009	千葉県	アメリカ	確認されず
2008	福岡県	韓国	26

一方で、無事に日本に帰国したとしても安心はできません。耐性菌は必ずしも病気を引き起こすわけではなく、気付かれることなく体内に入っていることがあります。皆様のなかにも、海外旅行中・帰国後に下痢に襲われ、抗菌薬を使用した経験がある方がいらっしゃると思います。おなかを壊したり、抗菌薬を使用したりすることが耐性菌の獲得リスクになり得るという研究結果が報告されています（Anu Kantele et al. Clin Infect Dis. 2015;60:837-846）。アジア・アフリカに旅行した430名の旅行者を対象に、旅行中の下痢症状の有無や抗生物質の使用歴について確

認するとともに、渡航前後に便培養検査を行いました。その結果、21%にあたる90名の旅行者から渡航後にESBL産生菌が検出されました。リスク因子を解析したところ、下痢症状があったり抗菌薬を使用したりすると、その獲得率が上昇したのです（右図）。また、渡航先別のリスクは、インドなどの南アジアが46%と最も高く、次いで東南アジア・アフリカ北部など（33%）となりました。旅行中は食事・飲み物について、十分注意しましょう。

渡航先別 下痢症状の有無・抗菌薬使用の有無によるESBL産生菌の獲得リスク



海外で入院などの医療を受けた患者さんや、海外に長期滞在していた患者さんが入院された場合、耐性菌スクリーニング検査を実施しています。感染制御部まで御連絡下さい。